

- 世話人(生川展行 電子メール tritoma@mecha.ne.jp)
- (2) 会場での飲食はできませんので、ご注意ください。
 - (3) 大会終了後の懇親会は中止します。

2024年東京例会秋季例会開催のお知らせ

会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。来る2024年度秋季例会につきましては以下の日程・場所で実施の予定です。最近の例会と同様、対面とオンライン（zoom使用）とのハイブリッド開催を予定しております。今後くわしい内容が固まり次第、また開催要項に変更があり次第、学会ホームページにてお知らせしますので、会員各位におかれましては、こまめに学会ホームページの方をチェックいただき、ふるってご参加いただけますようお願い申し上げます。

日時：2024年9月14日（土曜日） 13：00～16：30

※オンラインでの開催時間および参加方法については学会ホームページでご案内します。

対面開催場所：国立科学博物館附属自然教育園第一講義室
（右図）

〔交通〕 JR山手線「目黒」駅東口より目黒通り徒歩7分
または、東京メトロ南北線／都営三田線「白金台」
駅出口1より目黒通り徒歩4分

話題提供：2～3題の話題提供に続き、参加会員から短時間
（目安：各10分）の研究発表を求めます。

※対面、オンラインとも参加ご希望の方は事前に幹事の方
へお申し出ください。発言、発表をご希望の方もその旨
お知らせください。



（東京例会幹事 野村周平 E-mail: nomura@kahaku.go.jp）

2024年度日本甲虫学会賞選考委員会について

日本甲虫学会学会賞授与規程に基づき、評議員の互選によって2024年度の学会賞選考委員7名を選出しました（ただし、選考の公平・公正性の観点から委員長以外の6名の委員名は非公開とします）。また、選考委員の互選により、吉富博之が学会賞選考委員長に選ばれました。委員会は、論文賞、功労賞および奨励賞の各賞候補者を選定し、評議員会への諮問とその承認を経て、候補者を決定いたします。

（庶務幹事 金子直樹）

【公示】 2024年度奨励賞候補者の募集について

日本甲虫学会学会賞授与規程に従い、今年度の「奨励賞」候補者を募集します。奨励賞は、「年齢35歳以下の若手会員を対象とし、過去数年間（5年程度）に、著しい成果を挙げ、将来を嘱望される会員に授与すること」になっており、会員による他薦か自薦とし、候補者は、あらかじめ定める期日以内に、簡単な履歴書および業績一覧を提出する、と定められております。

つきましては、会員各位の周辺で「奨励賞」に値すると思われる若手会員にお心当たりがある方、もしくはご自身で応募を希望する方は、以下の要領で選考委員長宛に推薦、または応募いただければ幸いです。

- ・手続き：推薦書または応募理由書に、簡単な履歴書と業績一覧を添えて、メールで委員長宛に送付して下さい
- ・書類の様式：任意
- ・宛先：吉富博之 (e-mail : hymushi@agr.ehime-u.ac.jp)
- ・応募または推薦期限：2024年8月31日

(学会賞選考委員会 委員長 吉富博之)

2025・2026年度の会長および評議員選挙のお知らせ

日本甲虫学会の役員の任期は2年と定められており(会則第8条)、今年度は改選期にあたります。つきましては、会長ならびに評議員の選挙を実施します。8月末公示、9-10月投票票を予定していますので、ご承知おきいただければ幸いです。

(選挙管理委員会委員長 小島弘昭)

さやばねニューシリーズ編集委員会よりのお知らせ

さやばねニューシリーズは前号を除き、原則クロネコヤマト DM 便で発送しています。本年よりクロネコヤマト側の発送システムの変更により、学会側は作成した宛名シールを発送者に渡すことができなくなりました。従来、編集委員長が発送用の宛名シールから、論文著者と短報著者のシールを分け、本誌をそれぞれ3冊、2冊送付するように手配していました。しかし、今後はその作業ができなくなりますので、著者への複数部の送付は今号より廃止いたします。

宛先不明で編集部に戻送される本誌が少なからずあります。会費の振込用紙で住所変更を申し出られても、会員住所録に反映されません。送付先が変更となった場合は、必ず会計担当役員の戸田尚希(one.sheep.toda@gmail.com)まで連絡をお願いします。また、住所変更等が無くても、本誌が届かないとの事故は一定数で発生しています。その場合は、編集委員長の保科(hhoshina@f-edu.u-fukui.ac.jp)までお知らせください。

「洞窟採集、特にオキナワアシナガメクラチビゴミムシを目的とした採集における危険性」に関する注意喚起

2023年12月、沖縄本島において新種記載されたばかりのオキナワアシナガメクラチビゴミムシの採集を目的とした縦穴の洞窟採集で、本学会会員である1名が脱洞の際に岩に挟まれて身動きが取れなくなり、同行者が緊急救助要請するという事案が発生しました。レスキュー隊の8時間に及ぶ救助作業によって、当該の1名は救助されたものの重傷を負いました。本件において採集者はロッククライミングの装備や布製梯子等は携行していましたが、事故を起こしたような深い縦穴での採集経験はほとんどなかったようです。

この事案は学会活動とは直接の関係はありませんが、甲虫類の採集活動中に起きた、一歩間違えれば死亡事故にもなりかねない危険な事故でした。もとより洞窟採集は一般的な昆虫採集とは異なり、特殊な技術を要する難易度の高い採集方法です。難易度の高い洞窟での調査・採集には、本人の十分な入洞技術に加え、ケイビング専門家のサポートが必要となるケースもあります。このため学会としてもこのような事故の再発防止を目指し、「洞窟採集、特にオキナワアシナガメクラチビゴミムシを目的とした採集における危険性」について、以下のように強く注意喚起を行います。